

# 営農情報

## ■ 水稻の品質・登熟を高める水管理

7月28日の大雨豪雨により、中山揚水機場ポンプが不能となり今年の揚水が出来なくなっています。少ない水を皆さんで分け合い使用しましょう！

出穂後30日頃（9月上旬）までは玄米肥大が旺盛な時期であり、間断灌水や飽水管理をきめ細かにを行い、根の活力維持を図りましょう。

落水時期の目安は、普通田で出穂後30日、排水不良田で25日、砂質系で保水性の劣る田では35日程度であるが、落水時期はできる限り遅らせ、平坦部「はえぬき」で8月末から9月初め頃、「つや姫」では9月上旬頃までは落水を行わず、土壤水分を十分に保持しましょう。

## ■ 適期刈取りで高品質米の収穫！

品質の高い良食味米に仕上げるには、適期収穫がポイントです。

刈取り適期の目安は、青籾歩合や枝梗の黄化、籾水分（25%以下）を考慮し判断してください。

刈始めの青籾歩合は、「はえぬき」、「雪若丸」は20%、「つや姫」、「あきたこまち」、「ひとめぼれ」、「コシヒカリ」は15%残った状態が目安です。

籾が全部黄色になると、穂の先の籾が刈り遅れになることがありますので注意しましょう。

早く刈ると青米、未熟粒、やせ米が多くなり、水分過多になりやすくなります。  
⇒品質と収量が低下。乾燥経費（燃料費）の増大。

遅く刈ると胴割米、穂発芽、茶米等が増加し、過乾燥も起きやすくなります。  
⇒品質、等級、食味が大幅に低下。

## ■米出荷支援対策について

今年度も当 JA では（株）ジェイエイトんどうフーズと下記により出荷奨励措置を講じてまいります。是非、JA への米出荷をご検討下さい。

支援 1	JA への売渡しが 500 俵以上 1 俵あたり 200 円を助成します。
支援 2	JA 出荷率 70%を超えた俵数に対して 1 俵あたり 200 円を助成します。
支援 3	フレコンバッグでの出荷の場合 1 俵あたり 50 円を助成します。
支援 4	良食味米（食味値 80 以上）の出荷俵数に対して 1 俵あたり 500 円を助成します。 （但し、対象品種は、「はえぬき」「ひとめぼれ」「コシヒカリ」の主食用うるち玄米とする） ※JA 米検査室食味計使用による、計測値で判定したものとします。

## ■果樹の基肥

果樹の基肥は、根が活動している 9 月から 10 月に施用し、地温が下がる前に養分を根に吸収させましょう。有機質主体の緩効性肥料を用いる場合は、分解されて根から吸収されるまでの期間が化成肥料より長いので、9 月中に施用してください。

## ■【注意】もも「せん孔細菌病」の対策について

今年の春先にもものせん孔細菌病の発病枝が非常に多く発生しました。感染が広がらないよう収穫後の対策を徹底しましょう。

せん孔細菌病の病原菌は、葉で増殖し、秋季に落葉痕に感染して越冬し、翌春の感染源の春型枝病斑となるため IC ボルドー 412 の散布徹底で秋季感染防止をお願いします。（JA てんどう病害虫防除暦参照ください。）